

## 2019年度から2021年度の保健体育科教員養成課程 における教育実習生の評価と概評の考察

寺田進志\*<sup>1</sup> 前河泰正\*<sup>2</sup>  
永野翔大\*<sup>3</sup> 田中淳\*<sup>4</sup>

## A Discussion of the Evaluations and General Reviews of Teacher Training Students in the Health and Physical Education Teacher Training Course from 2019 to 2021

Michiyuki Terada\*<sup>1</sup> Yasumasa Maegawa\*<sup>2</sup>  
Shota Nagano\*<sup>3</sup> Jun Tanaka\*<sup>4</sup>

### Abstract

The purpose of this study is to identify and resolve problems and issues from student teacher evaluations and general reviews in order to improve and enhance the teacher training course in the Health and Physical Education course at Osaka International University. To achieve this, we reviewed the overall evaluations of student teachers from 2019 to 2021 and analyzed general reviews with AI text mining. It was determined that we should improve the knowledge and ability of the Health and Physical Education course and student guidance to meet a prescribed standard. Student teachers should be instructed on improving their material development and teaching practice, and be encouraged to teach with enthusiasm, earnestness, and be more involved with their students.

### キーワード

学習指導案、模擬授業、教材研究、資質、実践的指導力

### Key Words

Teaching Plan, Mock Class, Examination of Teaching Materials, Qualifications, Practical Teaching Ability

- 
- \* 1 てらだ みちゆき：大阪国際大学人間科学部スポーツ行動学科講師〈2022. 9. 16 受理〉
  - \* 2 まえがわ やすまさ：大阪国際大学教学教職センター
  - \* 3 ながの しょうた：東海学園大学スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科講師
  - \* 4 たなか じゅん：大阪国際大学人間科学部スポーツ行動学科教授

## I. はじめに

大阪国際大学人間科学部スポーツ行動学科では、これまでに保健体育科教員養成にも力を入れてきた。その結果、多くの保健体育科教員を社会に輩出している。しかし、2014年度に2名の現役合格者を出して以来、教員採用試験に現役合格する者は現れていない(2022年8月1日現在)。この現状を考慮すると、より早く現役合格者を出すことは課題の一つになっていることは明白である。ただし、単に現役合格者を輩出すればいいわけではなく、建学の精神である「全人教育」に基づいて教員養成を行い、「実践的指導力」を身につけた教員を養成することが強く望まれる。

実践的指導力を身につけるためには、当然、教職関連科目はもとよりその他の科目についても真摯に受講することが学生には求められる。そうすることで、大学在学中に学生は一定レベルの実践的指導力を身につけることができる。そして、大学生生活をとおして身につけた教員としての資質・能力を発揮し、現状の自身のレベルを把握するとともに、課題を発見し、教師としての適性を見極める、いわば腕試しの機会が教育実習であるといえるだろう。教職課程コアカリキュラム（教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討委員会、p.29）にも、「教育実習は、観察・参加・実習という方法で教育実践に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。一定の実践的指導力を有する指導教員のもとで体験を積み、学校教育の実際を体験的・総合的に理解し、教育実践ならびに教育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける」と明記されている。

教育実習において学生は現場の教員に指導してもらい、そこでの取組を評価してもらうことになるが、この評価は教員養成課程を充実、改善、発展させるための有益な一資料になると考えられる。教育現場における学生の取組の評価は本学教員養成課程の不足部分の指摘に繋がるからである。そして、現場教員からの教育実習生に対する貴重な評価を検討することによって、大阪国際大学保健体育科教員養成課程の改善に繋げることができると考えられる。しかし、これまでに大阪国際大学教育実習生の評価が検討された研究は見当たらない。

そこで本研究では、大阪国際大学保健体育科教員養成課程における教育実習生の2019年度から2021年度の評価と概評を考察し、その考察を基に保健体育科教員養成課程の課題を明確にし、教員養成課程を更に充実させるための基礎資料を得ることを目的とする。なお、本稿で筆者という言葉が出た場合、筆頭筆者を表すことを付言する。

## II. 方法

### 1. 対象

2019年度から2021年度までの教育実習に参加した学生のうち、中高一貫校と特別支援学校に参加した学生（計5名）を除く計157名の教育実習生の評価と教育実習先の担当教員が記載した「概評」が分析対象である。157名の内訳は、2019年度が57名（中学校：22名、高等学校：35名、中高一貫校：1名 [除外]）、2020年度が42名（中学校：18名、高等学校：24名、中高一貫校1名 [除外]）、特別支援学校：2名 [除外]）、2021年度が58名

(中学校：25名、高等学校：33名、中高一貫校1名〔除外〕)である。分析対象となった概評は総数8,741語であり、内訳は、高等学校の総数が5,084語、2021年度が1,800語、2020年度が1,509語、2019年度が1,775語、中学校の総数が3,657語、2021年度が1,305語、2020年度が989語、2019年度が1,363語である。

なお、本研究では学生の教育実習の評価と教育実習先の指導教員が記載した概評が分析される。評価は平均化され、概評はテキストマイニング分析されるため、個人は特定されない。

## 2. 手順

まず、2019年度から2021年度の教育実習生の評価が示される。教育実習の評価項目は三つの領域にわけられている。一つ目が「学習指導」、二つ目が「生徒指導」、三つ目が「教職勤務」である。さらに、「学習指導」は「教材に関する知識と理解の程度」、「教材及び指導計画作成上の研究態度」、「学習指導上の技術と態度」、「生徒指導」は「生徒指導に関する理解の態度」、「生徒指導の能力と態度」、「指導技術（個人指導、学級指導）」、「教職勤務」は「自律的な勤務状況」、「教育的熱意」、「教師としての資質」から成り立つ。そして、総合評価となり、いずれも5段階評価になっている。

次に、株式会社ユーザーローカル社が提供するAIテキストマイニングによって分析された概評の結果が示される。テキストマイニングについてフェルドマン・サンガー（2010, p.1）は、テキストマイニングは情報源に潜在する興味深いパターンを見つけ出し、有用な情報を得ることを目指しているという。本研究では教育実習先の担当教員はどんな言葉を多用しているのか、どんな語と語が関係しているのかを明らかにすることで教育実習先からみる大阪国際大学教育実習生の平均的な像を明確にすることが目指される。平均的な像が明確にされることで大阪国際大学保健体育科教員養成課程を改善するための有用な知見を得ることができると考えられる。テキストマイニングの実施においては、2019年度から2021年度の教育実習生の全体の概評、同期間の中学校の教育実習に参加した学生に対する概評、同期間の高等学校の教育実習に参加した学生に対する概評を分析する。中学校の教育実習に参加した学生と高等学校の教育実習に参加した学生に対する概評を分析する理由は校種によって異なる評価を得られているかを確認するためである。

## Ⅲ. 結果

### 1. 教育実習生の評価

#### 1) 全体の評価

2019年度から2021年度の教育実習生の評価は表1のとおりである。図1は年度間の評価をチャートにしたものである。図1を一見すると、直近3年間の大阪国際大学の教育実習生の評価の傾向が類似していることを理解できる。「自律的な勤務状況」と「教育的熱意」については、いずれの年度においても4.00を超えている。「教材及び指導計画作成上の研究態度」と「教師としての資質」については、2020年度と2021年度において4.00を超えている。

表1 2019年度から2021年度の教育実習生全体の評価

年度	学習指導			生徒指導			教職勤務			総合評価 (5段階)
	教材に関する知識と理解の程度	教材及び指導計画作成の態度	学習指導上の技術と態度	生徒指導に関する理解の態度	生徒指導の能力と態度	指導技術(個人指導、学級指導)	自律的な勤務状況	教育的熱意	教師としての資質	
2019	3.54	3.95	3.70	3.79	3.42	3.60	4.18	4.16	3.89	3.86
2020	3.49	4.02	3.83	3.83	3.68	3.66	4.39	4.27	4.02	3.83
2021	3.62	4.00	3.78	3.89	3.71	3.76	4.51	4.31	4.11	4.04
平均	3.55	3.99	3.77	3.84	3.60	3.67	4.36	4.25	4.01	3.91

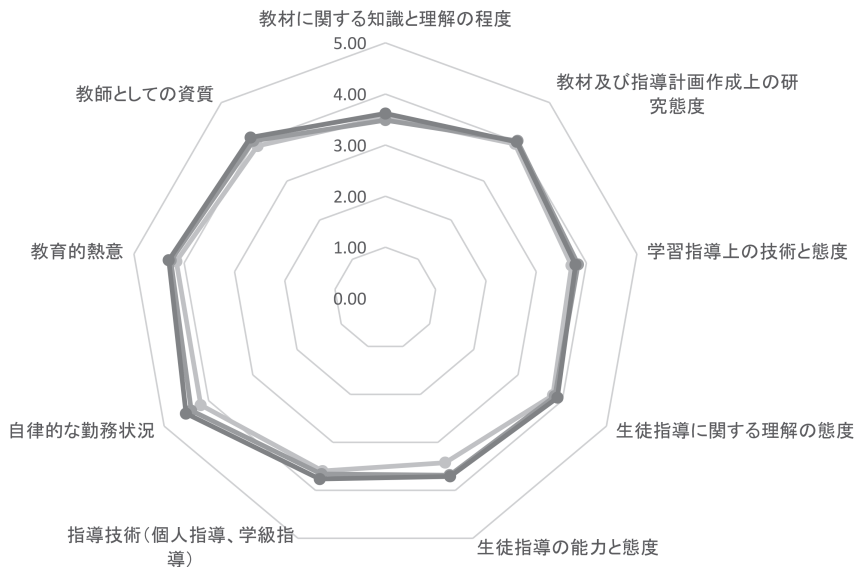


図1 2019年度から2021年度の教育実習生の評価チャート

2019年度から2021年度において、最も評価の低い項目は2019年度における「生徒指導の能力と態度」であり、評価は3.42である。しかし、それぞれの項目の年度間の平均を比較すると、「教材に関する知識と理解の程度」が最も低い項目となり、評価は3.55である。他方、最も評価の高い項目は、2021年度における「自律的な勤務状況」であり、評価は4.51である。項目の年度間の平均において最も高い評価項目も「自律的な勤務状況」であり、評価は4.36である。

2019年度から2021年度の保健体育科教員養成課程における教育実習生の評価と概評の考察

総合評価については、2019年度が3.86であり、2020年度が3.83であり、2021年度が4.04である。そして、直近3年間の平均値は3.91となっている。

2) 中学校の教育実習に参加した学生の評価

中学校での教育実習に参加した学生の評価は表2のとおりである。図2は中学校での教育実習に参加した学生の評価をチャートにしたものである。図2は図1と同様のかたちを示していることから、中学校の教育実習に参加した学生の評価と同様の傾向を示している

表2 2019年度から2021年度に中学校の教育実習に参加した学生の評価

年度	学習指導			生徒指導			教職勤務			総合評価 (5段階)
	教材に関する知識と理解の程度	教材及び指導計画作成上の研究態度	学習指導上の技術と態度	生徒指導に関する理解の態度	生徒指導の能力と態度	指導技術(個人指導、学級指導)	自律的な勤務状況	教育的熱意	教師としての資質	
2019	3.36	3.86	3.50	3.77	3.41	3.50	4.14	4.09	3.77	3.77
2020	3.47	4.12	3.88	3.88	3.59	3.76	4.47	4.41	4.12	4.00
2021	3.59	4.05	3.59	3.82	3.36	3.59	4.50	4.23	4.05	3.86
平均	3.48	4.01	3.66	3.82	3.45	3.62	4.37	4.24	3.98	3.88

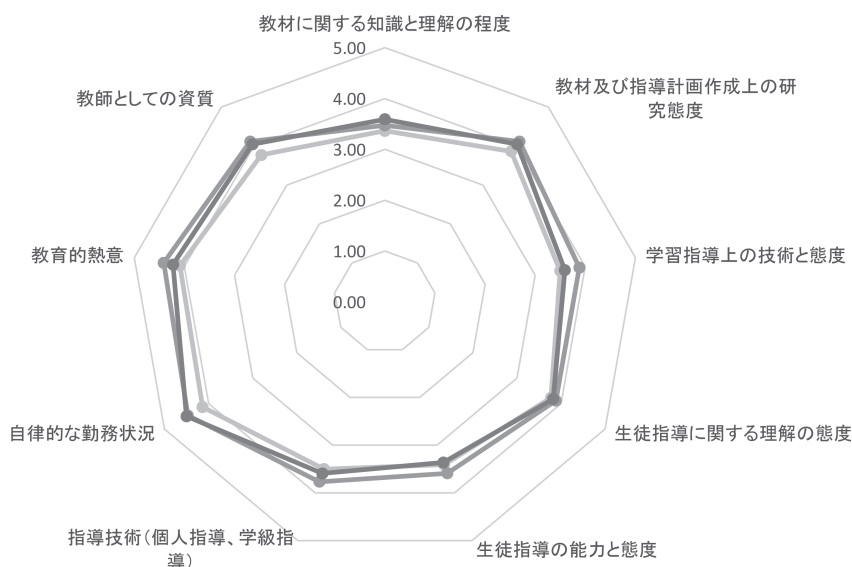


図2 2019年度から2021年度に中学校の教育実習に参加した学生の評価チャート

といえる。評価が4.00未満の項目についても、教育実習生全体の評価と同様の結果を示している。ただし、平均についてはその限りではない。「教材及び指導計画作成上の研究態度」の平均値は4.01となり、教育実習生全体の評価における同様の箇所よりも高評価となっている。しかし、「教師としての資質」の平均値は3.98となり、この項目については全体比較よりも低評価となっている。

中学校での教育実習に参加した学生の評価項目において最も低い評価項目は2019年度の「教材に関する知識と理解の程度」と2021年度の「生徒指導の能力と態度」であり、いずれも3.36となっている。他方、最も評価の高い項目は2021年度の「自律的な勤務状況」であり、評価は4.50である。

総合評価については、2019年度が3.77であり、2020年度が4.00であり、2021年度が3.86となっている。そして、直近3年間の平均値は3.88となっている。

### 3) 高等学校の教育実習に参加した学生の評価

高等学校での教育実習に参加した学生の評価は表3のとおりである。図3は高等学校での教育実習に参加した学生の評価をチャートにしたものである。図3についても、図1と同様のかたちを示している。

高等学校での教育実習に参加した学生の評価において最も評価の低い項目は2019年度の「生徒指導の能力と態度」であり、評価は3.43である。他方、最も高い評価の項目は2021年度の「自律的な勤務状況」であり、評価は4.52である。

総合評価については、2019年度が3.91であり、2020年度が3.71であり、2021年度が4.15である。そして、直近3年間の平均値は3.92となっている。

## 2. 教育実習の概評

ここでは、2019年度から2021年度に教育実習に参加した全ての実習生の概評、2019年度から2021年度に中学校の教育実習に参加した実習生の概評、2019年度から2021年度に

表3 2019年度から2021年度に高等学校の教育実習に参加した学生の評価

年度	学習指導			生徒指導			教職勤務			総合評価 (5段階)
	教材に関する程度 知識と理解	教材上及び の 研究 指導 態度 計画 作成	学習指導上の 技術と 態度	生徒指導に 関する 理解 の 態度	生徒指導の 能力と 態度	指導技術 (個人 指導、 学級 指導)	自律的な 勤務 状況	教育的 熱意	教師としての 資質	
2019	3.66	4.00	3.83	3.80	3.43	3.66	4.20	4.20	3.97	3.91
2020	3.50	3.96	3.79	3.79	3.75	3.58	4.33	4.17	3.96	3.71
2021	3.64	3.97	3.91	3.94	3.94	3.88	4.52	4.36	4.15	4.15
平均	3.60	3.98	3.84	3.84	3.71	3.71	4.35	4.24	4.03	3.92

## 2019年度から2021年度の保健体育科教員養成課程における教育実習生の評価と概評の考察

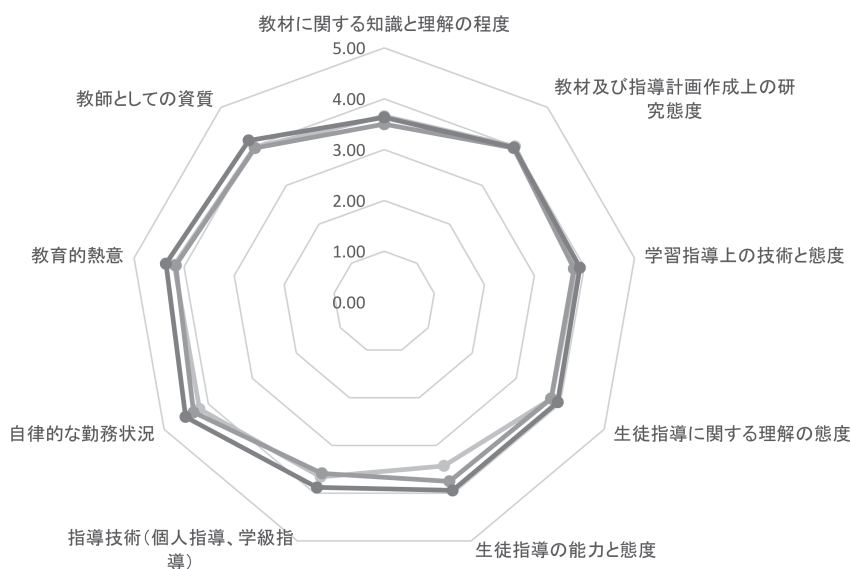


図3 2019年度から2021年度に高等学校の教育実習に参加した学生の評価チャート

高等学校の教育実習に参加した実習生の概評をテキストマイニングした。その際、ワードクラウド<sup>注1)</sup>と共起キーワード<sup>注2)</sup>を提示する。ワードクラウドから概評の中で最もスコアの高い語を明確にすることができる。また、共起キーワードから語と語の繋がりを明確にすることができる。

### 1) 教育実習生全体の概評

2019年度から2021年度の学生に対する概評をテキストマイニングした結果は図4と図5が示すとおりである。

図4のワードクラウドから「取り組む」が最もスコアの高い語であることがわかる。続いて、「教材研究」、「生徒」、「学習指導」、「実習」、「意欲的」、「指導」、「教員」、「熱意」、「態度」(以上、名詞)、「取り組める」(動詞)が高い値を示している。図5の共起キーワードから「取り組む」と「実習」、「真面目」と「態度」、「熱意」と「持つ」、「熱意」と「感じる」、「生徒」と「積極的」と「関わる」の関連が強いことがわかる。また、「今後」と「ほしい」、「欲しい」の関連も強いことがわかる。

### 2) 中学校の教育実習に参加した学生の概評

2019年度から2021年度の中学校の教育実習に参加した学生に対する概評をテキストマイニングした結果は図6と図7が示すとおりである。

図6のワードクラウドから「取り組む」が最もスコアの高い語であることがわかる。続いて、「生徒」、「教材研究」、「実習」、「意欲的」、「学習指導」、「部活動」、「積極的」、「熱











は「保健体育科教育法」のいずれの科目においても学習指導案の作成に注力したといった発言をしていた。その結果、教育実習に参加するまでに、実習生には一定レベルで「教材及び指導計画作成上の研究態度」が養成されていたと考えられる。

しかし、「教材に関する知識と理解の程度」と「学習指導上の技術と態度」については、いずれも 4.00 未満である。3 年間の平均は「教材に関する知識と理解の程度」が 3.55 であり、「学習指導上の技術と態度」は 3.77 である。教材に関する知識と理解が低いということは、大学の授業をとおして教材研究を十分にできていないことが考えられる。また、そもそも「教材とは何か」を十分に理解できていない可能性も考えられる。昨年度、筆者は「保健体育科教育法」の一部を担当し、現在、「保健体育科教育法」のいずれの科目も担当している。それらの授業をとおして、受講生全体の理解度は決して高くないと筆者は実感している。例えば、学習指導案の形式は決まっていなくても、記載すべき項目はある程度決められ、その一つに教材観があるが、十分に満足できるレベルで教材観を書くことができる学生は多くはない。学習指導案の書き方を指導しながら、「教材観とは何か」、「教材観では何を書かなければならないのか」といったことを理解できていないと思われる学習指導案を目にすることも多々ある。

「学習指導上の技術と態度」の項目についても、いずれの年度も 4.00 以上の評価を得られていない。この項目では、指導技術や指導態度が問われることになる。そのため、大学の授業をとおして、どのくらい、また、どのように模擬授業を実施したかが影響を与えることになると考えられる。言い換えれば、模擬授業の量と質を十分に確保されていたかが影響していると考えられる。大阪国際大学の保健体育科教員養成課程では、「教育実習研究」という科目で主に模擬授業を実施してきた。ただ、例年、その科目では保健の模擬授業を実施してきたようである。今年度、筆者はこの科目で体育の模擬授業を実施したが、改めて、保健だけではなく、体育の模擬授業を実施すべきだと強く感じた。教育実習において、保健の授業と体育の授業をそれぞれどの程度、学生が実施したかはわからないが、多くの実習校では、保健の授業よりも体育の授業を実習生に担当させることが推察される。それを前提にすると、「学習指導上の技術と態度」は、主に体育の授業の評価が反映されることになる。教員養成課程をとおして、体育の模擬授業の機会が少ないのであれば、当然、体育の実践的指導力は身につかない。このような現状を踏まえると、「学習指導上の技術と態度」の項目の評価が高くなかったことは容易に理解される。

それぞれの項目の関係性にも目を向けることは有用だろう。「学習指導」では、「教材に関する知識と理解の程度」、「教材及び指導計画作成上の研究態度」、「学習指導上の技術と態度」となっている。取り上げられている順序性に注目すると、まず「教材についての知識があり、それを理解しているか」が問われ、それを基に「十分に教材研究を行い、指導計画を作成できるか」が問われ、最後に「実際にそれらを基に指導することができるか」が問われていると考えることができるだろう。

また、「教材及び指導計画作成上の研究態度」の評価が高いが、この項目では「態度」が評価される。そのため、教材及び指導計画作成の出来映えが評価されているわけではないことに注意する必要がある。つまり、これまでの大学での指導において、何度も学習指導

案を作成することとおして、学生には教材研究の「態度」と指導計画を作成するための「態度」が養われたが、それぞれの出来映えについては評価されていないことになる。そうすると、2020年度と2021年度の「教材及び指導計画作成上の研究態度」が4.00以上ではあったが、教材研究や指導計画の出来映えは評価されていないと解釈することができる。この解釈に基づくと、大学の授業をとおして教材研究や指導計画作成の能力を更に向上させる必要性が見出される。ただし、この項目が「態度」についての評価項目になっている以上、教材研究や指導計画作成の能力は問われることはない。教材研究や指導計画立案の能力を評価するのであれば、その点についての修正が必要になる。

## 2) 生徒指導の評価

直近3年間において、生徒指導の項目だけが4.00以上の評価を得ることができなかった。2019年度から2021年度に入学した世代は、いわゆるz世代として位置づけられるだろう。この世代は、時を同じくして「友達親子」や「褒めて伸ばす」といったことが話題になった時期と重なるといえるだろう。「友達親子」や「褒めて伸ばす」ことを全て否定するわけではないが、その関係性や教育・指導方針に問題があることも見逃してはならない。

褒めることについて、石田（東洋経済 ONLINE）のインタビューに対して、心理学者の榎本は、何かの折に褒めることは当然だが、何でも褒めて叱らない子育てはダメだ、とははっきりと主張している。また、榎本（東洋経済 ONLINE）は褒めることで自己肯定感が高まるというのは幻想であり、自己肯定感褒めることでは高まらないと主張している。すなわち、榎本は「褒める教育」の在り方に疑問を投げかけている。たしかに、友達親子の関係において、褒める教育をすることで問題も生じるだろう。

例えば、友達親子関係では、「叱る（親）—叱られる（子）」という状態が生じにくいと考えられる。そのうえで、「褒めて伸ばす」のだから、子どもは「叱られること」や「欠点を指摘されること」に対する免疫がつかない。叱られることや欠点を指摘されることを経験したことがなければ、教育現場に出た際に、生徒たちを叱ることや欠点を指摘することはできないだろう。「生徒指導の能力」では、教育実習生の育ってきた環境や時代背景をも考慮する必要があるかもしれない。そして、そのような素養のうえに生徒指導の「技術」が問題にされるべきだろう。もちろん、教育実習生にとって、生徒指導は荷が重いことも考えられる。生徒に嫌われたくないとか、生徒と仲良くなりたいとか、そのような感情から「ダメなことはダメ」と、生徒にはっきり伝えられないことも考えられる。しかし、教育実習生であろうとも、教育現場に身を置く以上、生徒指導を実践しなければならない。ある一定レベルで生徒指導の能力を身につけて教育実習に参加できるように指導することが、教員養成課程に求められるだろう。

## 3) 教職勤務の評価

評価分類の中で、4.00が占める割合が多い項目は「教職勤務」である。教育実習生全体の評価と中学校の教育実習に参加した学生の評価のいずれにおいても、2019年度の「教師としての資質」以外の項目は全て4.00以上である。高等学校の教育実習に参加した学生の

評価においても、2019年度と2020年度の「教師としての資質」以外の項目は全て4.00以上である。このことから、直近3年間について、大阪国際大学の教育実習生は「『自律的な勤務』ができ、『教育的熱意』がある」という評価を受け、そのような傾向があり、これらの項目については比較的高い評価を得ている。

このような評価を得た背景には、保健体育科の教育実習生であることが関係していると考えられる。なぜなら、保健体育科教員を目指す多くの学生は大学においても部活動もしくはスポーツ活動に参加する、あるいは高等学校までに部活動もしくはスポーツ活動に参加していたことにより、その活動をとおして「自律」や「熱意」を醸成されていたと考えられるからである。そもそも、保健体育科の教員免許取得を希望する学生の多くは、それぞれが実施している、あるいは実施してきたスポーツが好きであり、将来、そのスポーツに関わる仕事を希望し、その職種の一つに保健体育科教員をあげている傾向が極めて強い。そして、教員になった暁には、それぞれが好きなスポーツの部活動の指導に当たることを目指しているといえる。そのような学生が教員養成課程を履修していることは、教員養成課程の学生との会話からも明らかである。教育実習では、部活動の指導に当たるか否かは実習先の判断に委ねられるが、スポーツ好きな学生が、学校体育というスポーツ現場（教育現場であることは当然として）に身を置けるのであるから、自律的に、熱意をもって実習に参加していたと考えられる。

また、教職勤務の領域では、2019年度の「教師としての資質」だけが4.00未満になっている。ただ、その項目について、2020年度は4.02であり、2021年度は4.11であり、直近3年間の平均が4.01となっている。「自律的な勤務状況」と「教育的熱意」の項目と比較すると、低い評価であるが、4.00を基準にすると、高評価と捉えることができる。ただ、「教師としての資質」については、4.50程度、つまり「教師としての資質は大いにある」と捉えられる評価が得られることが望ましいだろう。

教員に求められる資質能力について、文部科学省は以下のように説明している（文部科学省）。

1. いつの時代にも求められる資質能力：教育者としての使命感、人間の成長・発達についての深い理解、幼児・児童・生徒に対する教育的愛情、教科等に関する専門的知識、幅広く豊かな教養、これらを基礎とした実践的指導力等
2. 今後特に求められる資質能力：地球的視野に立って行動するための資質能力（地球、国家、人間等に関する適切な理解、豊かな人間性、国際社会で必要とされる基本的資質能力）、変化の時代を生きる社会人に求められる資質能力（課題探求能力等に関わるもの、人間関係に関わるもの、社会の変化に適応するための知識及び技術）、教員の職務から必然的に求められる資質能力（幼児・児童・生徒や教育の在り方に関する適切な理解、教職に対する愛着、誇り、一体感、教科指導、生徒指導等のための知識、技能及び態度）
3. 得意分野を持つ個性豊かな教員：画一的な教員像を求めることは避け、生涯にわたり資質能力の向上を図るという前提に立って、全教員に共通に求められる基礎的・基本的な資質能力を確保するとともに、積極的に各人の得意分野づくりや個性の伸

長を図ることが大切であること

文部科学省は「資質」と「能力」を組合せて使用している。そして、「いつの時代にも求められる資質能力」の中に、「教科等に関する専門的知識」が位置づけられている。他方、大阪国際大学で使用している教育実習の評価項目は「教科に関する知識と理解の程度」と「教師としての資質」はわけられている。これらを踏まえると、文部科学省と大阪国際大学で使用する評価項目の「資質」の意味は同一であるとはいえない。一般に、資質は「生まれつきのもの」と認識されていることを踏まえると、大阪国際大学で使用する評価項目は一般的な意味を示していると考えられる。そして、おそらく実習担当教員も一般的意味としての「資質」の観点から教育実習生を評価したと考えることができる。言い換えると、「教師としての資質」の項目は、いわば「教員に向いているか」を評価する項目であると考えられる。それを踏まえると、「教師としての資質」の項目において、できるだけ高い評価を得ることが望ましいと考えられる。

## 2. 2019年度から2021年度の教育実習生に対する概評

テキストマイニングをした結果、2019年度から2021年度の概評と同期間の中学校の教育実習に参加した実習生の概評並びに同期間の高等学校の教育実習に参加した実習生の概評は、ほぼ同じ結果を示したことは明白である（図4、図6、図8参照）。すなわち、いずれも「取り組む」、「教材研究」、「生徒」、「実習」のスコアが高い。

2019年度から2021年度の全体概評の共起キーワードから、「(意欲的に) 実習に取り組む」、「実習態度は真面目」、「教材研究に熱心」、「生徒に積極的に関わる」、「(実習生は教育実習に) 熱意をもつ」、「(実習担当教員が学生の) 熱意を感じる」といったことを窺い知ることができる。また、「今後…ほしい」(教育実習生に対する要望) が強い繋がりを示していることを窺い知ることができる。

2019年度から2021年度に中学校の教育実習に参加した学生の概評の共起キーワードから、「実習に取り組む」、「生徒や内容の理解に努める」、「積極的に関わる」、「積極的に取り組める」、「熱心に関わる」、「熱心に取り組む」、「教材研究に励む」、「授業づくりを工夫する」、「学習指導の努力(が必要!?)」、「学習指導が難しい」、「生徒指導が難しい」、「(実習生は教育実習に) 熱意をもつ」、「(実習担当教員が学生の) 熱意を感じる」、「今後…ほしい」(教育実習生に対する要望) といったことを窺い知ることができる。ただ、「教育」と「活動」と「様々」が強い繋がりを示しているが、この点に関する解釈は困難である。「様々な教育活動」として解釈することができるが、動詞との結びつきを見出せないため、この共起キーワードからはその活動が「行われた」のか、「行ってほしかった」のかを理解することは困難である。

2019年度から2021年度に高等学校の教育実習に参加した学生の概評の共起キーワードから、「授業できる」、「指導できる」、「指導案」、「実習に取り組む態度が真面目」、「教材研究に熱心」、「(実習生が) 熱意を持つ」、「(実習生の) 熱意を感じる」、「関わりが少ない」、「真摯に臨む」といったことを窺い知ることができる。また、「今後…ほしい」(教育実習生に対する要望) といったことを窺い知ることができる。

中学校の教育実習に参加した学生と高等学校の教育実習に参加した学生の相違点を明らかにすることをねらいに、それぞれの概評をテキストマイニングした。しかし、大差のない結果となったといえる。すなわち、中学校の教育実習に参加した学生と高等学校の教育実習に参加した学生の概評はほとんど変わらない、ということである。それを踏まえて全体の概評を確認すると、実習先の担当教員から、「熱意をもって教育実習に取り組み、その態度は真面目であり、教材研究に熱心であり、生徒に積極的に関わっている」といった評価を受けていることがわかる。他方、「今後」と「ほしい」という語の繋がりが強いことから、教育実習担当教員は、学生に対して課題を提示し、要望を出していると考えられる。ただ、共起キーワードには、課題、要望は具体的には示されない。それぞれの実習担当教員から学生に対する課題や要望については、別途確認して教員養成課程に還元されることが望まれる。

### 3. 評価と概評から考えられる教育実習生の平均的な像と課題

評価と概評から、教育実習生の平均的な像が浮かび上がる。すでに述べられたが、教育実習生は「熱意をもって教育実習に取り組み、その態度は真面目であり、教材研究に熱心であり、生徒に積極的に関わっている」といえる。そして、実習担当教員の実習生に対する評価と概評についても相互に関係しているといえる。「熱意をもって教育実習に取り組み」、「真面目」という概評と勤務状況における「自律的な勤務状況」(3年間の平均は4.36)と「教育的熱意」(3年間の平均は4.25)の項目の評価が高いことや「教材研究に熱心」という概評と学習指導における「教材及び指導計画作成上の研究態度」(3年間の平均は3.99)の項目が高いこと、「生徒に積極的に関わっている」という概評と生徒指導における「生徒指導に関する理解の態度」(3年間の平均は3.84)の項目も比較的 low ではないことから、評価と概評の傾向は類似しているといえる。これは、実習担当教員の教育実習生に対する、いわば量的評価と質的評価の一致であると解釈できると考えられる。

では、教育実習生の課題は何か。学習指導における「教材に関する知識と理解の程度」(3年間の平均は3.55)が全ての項目の評価の中で最も低いことを考慮すると、概評において「今後…ほしい」の「…」に、その点についての課題を提示し、要望を出していると考えられる。すなわち、実習担当教員は実習生に対して「今後、教材に関する知識と理解度を深めてほしい」と考えていると解釈できるだろう。また、「学習指導上の技術と態度」(3年間の平均は3.77)の評価も決して高くないことから、この点に関する改善も求められる。そのほか、生徒指導における「生徒指導の能力と態度」(3年間の平均は3.60)と「指導技術(個人指導、学級指導)」(3年間の平均は3.67)を考慮すると、この点についての課題を提示し、要望を出していることも考えられる。すなわち、実習担当教員は実習生に対して「今後、生徒指導の能力と態度、指導技術を身につけてほしい」と考えていると解釈できるだろう。

### 4. 「評価」と「概評」について

これまでの考察から、教育実習生の課題と平均的な像が明確になったが、最後に、教育



実習での評価そのものに対する課題が文部科学省から周知されていることを取り上げておくことは有益だろう。

文部科学省の『教職課程認定基準等について』において（文部科学省総合教育政策局教育人材政策課，p.25）、学生が母校に教育実習へ行く場合、①大学の指導体制の確保、②卒業生である実習生に対する実習校の評価の客観性の確保の二点が課題としてあげられている。②の課題があげられるということは、卒業生である実習生に対しての評価の客観性が確保されにくいことを表していると考えられる。実習生が中学校あるいは高等学校に在学していた頃の先生が実習担当となった場合、その評価に温情などは含まれないかといったことを危惧している文章であると解釈できるだろう。文部科学省は、教育実習生に対する評価の客観性を確保するために、責任の主体である大学には実習校と連携して指導することを求め、実習校側には適切な評価を求めている。今回、評価と概評を考察してきたが、とりわけ評価については5段階で評価されているため、その中身を把握することはできない（数値化されている以上、根本的に無理だが）。本研究では、概評との関連から、その評価の中身を推察することが試みられたが、実習校の評価者の心情まで把握することはできない。この点については、文部科学省の指摘のとおり、引き続き「努める」ことが重要だろう。

また、現在、使用されている評価項目は筆者が教育実習を担当する前から使用されている。そして、この評価項目を設定した背景については、今まで筆者並びに共著者もその詳細を知り得なかった。現在、使用している評価項目それ自体に大きな問題があるとはいえない。ただ、「態度」を評価するのか「能力」を評価するのかによって、その意味は変わる。極端ではあるが、「態度」を評価するのであれば、教育実習生は「頑張っている姿勢」を見せることができれば実習担当教員から高評価を得ることができる。しかし、「能力」を評価項目にすると、異なる評価が得られることになると考えられる。この点についてはこれまでの経緯を踏まえて、文部科学省が示す、「教員に求められる資質能力」を参考にして、再考することも必要だと考えられる。しかし、この点に関する検討には時間を要するだろう。

## V. おわりに

本研究では、大阪国際大学保健体育科教員養成課程における教育実習生の2019年度から2021年度の評価と概評を考察し、その考察を基に保健体育科教員養成課程の課題を明確にし、教員養成課程を更に充実させるための基礎資料を得ることが目的とされた。

分析と考察の結果、教育実習生の課題が明確になった。すなわち、①教科指導に関する知識・能力の改善、②生徒指導に関する知識・能力の改善の必要性である。また、教育実習生の平均的な像も明らかになった。すなわち、教育実習生は「熱意をもって教育実習に取り組み、その態度は真面目であり、教材研究に熱心であり、生徒に積極的に関わっている」ということである。これらを踏まえると、教育実習生は「一生懸命に実習を頑張るが、知識、能力が不足している」といえる。

本研究では、あくまで平均化された課題と教育実習生の像が明らかにされたことを注意

喚起しておく。結局、教育実習生個人の課題を浮き彫りにして、その課題を改善させることが重要である。しかし、大学の授業は個別塾とは異なる。そのため、それぞれの科目で個別指導することは極めて困難である。教員養成課程に限らず、大学では学生自身の「学びの姿勢」に委ねられることが改めて理解されなければならない。ただ、大学は教員養成における責任を担っていることから、その課程を更に充実させるよう努めることも必要である。

本研究で抽出された課題を改善、解決するためには、当該科目の授業内容を見直し、関連科目において、学生に対して十分な指導をする必要があると考えられる。例えば、教材に関する知識と理解度を深めるためには、教材について事あるごとに説明することや繰り返し教材研究を実施させ、学習指導案を作成させ、そして何度も模擬授業を实践させることが重要になるだろう。ただし、学生に模擬授業を实践させるためには大学の体育施設を充実させることや優先的にそれらの施設を利用させてもらうことが必要になる。その際に、大学併設の大和田高等学校跡地を活用することなどを検討すべきだろう。また、教員養成課程を履修している学生の受講態度を改めさせ、教育実習に参加すること及び教員になることの意味を説き、教育実習を充実させるための力を身につけさせるだけではなく、教育現場で即戦力となるよう日頃から意識づけさせることも重要になるだろう。併設の幼稚園や中高一貫校、地域の学校と協力関係を築き、学生に対して早い段階から教育現場に身を置かせ、そこでの活動をとおして実践的指導力を身につけさせることも良いだろう。課題を解決するためには、これまでの考え方や方法などを無条件で踏襲することなく、一度、現状を疑い、建学の精神や現状の教員養成課程、そして、「あるべき教員養成課程」を考え直し、より良い教員養成課程になるよう努めていくことが必要である。本研究が、そのきっかけになれば幸いである。

#### 注

- 注1) ワードクラウドとは、スコアが高い単語を複数選び、その値に応じた大きさを図示されたものである。なお、スコアはその単語の「重要度」を表す値である<sup>4)</sup>。
- 注2) 共起キーワードとは、文章中に出現する単語の出現パターンが似たものを線で結んだ図で示されたものである。出現回数が多い語ほど大きく、共起の程度が強いほど太い線で描かれている。
- 注3) 上記については、「ユーザーローカル AIテキストマイニング」を参照。

#### 文献

- 榎本博明. 「ほめる教育」で自己肯定感が高まらない衝撃事実 子供を叱らない大人が増えたのは「エゴ」ゆえか. 東洋経済 ONLINE. 入手先 <<https://toyokeizai.net/articles/-/508877>>, (参照 2022-8-5).
- フェルドマン・サンガー. テキストマイニングハンドブック. 辻井潤一監訳. 東京電機大学出版局, 2010.
- 教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討委員会. 教職課程コアカリキュラム. 文部科学省. (オンライン), 入手先 <[https://www.mext.go.jp/content/1421964\\_2\\_1\\_2.pdf](https://www.mext.go.jp/content/1421964_2_1_2.pdf)>, (参照 2022-8-1).
- 文部科学省. (2) 教員に求められる資質能力. 文部科学省, 入手先 <[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1346376.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1346376.htm)>, (参照 2022-8-5).

2019年度から2021年度の保健体育科教員養成課程における教育実習生の評価と概評の考察

文部科学省総合教育政策局教育人材政策課. 教職課程認定基準等について. 文部科学省. (オンライン), 入手先 <[https://www.mext.go.jp/content/20211223-mxt\\_kyoikujinzai01-100001263\\_09.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20211223-mxt_kyoikujinzai01-100001263_09.pdf)>, (参照 2022-8-5).

塚田紀史. 「褒めて育てる」でダメになった日本の若者 エセ欧米流が子どもの生命力を歪めた. 東洋経済 ONLINE. 入手先 <<https://toyokeizai.net/articles/-/100455?page=3>>, (参照 2022-8-4).

ユーザーローカル AIテキストマイニング. 株式会社ユーザーローカル. 入手先 <<https://textmining.userlocal.jp/results/jLhfU6XSa33s8DarPgdQFpdNNWr6ZMWq>>, (参照 2022-8-3).

ユーザーローカル テキストマイニングツール. 「スコア」について詳しく教えてください. 株式会社ユーザーローカル. 入手先 <[https://textmining.userlocal.jp/questions#data\\_q2](https://textmining.userlocal.jp/questions#data_q2)>, (参照 2022-8-3).